

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こもれび通所支援事業所（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年4月1日 ～ 2025年5月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2024年4月1日 ～ 2025年5月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年5月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	たくさんの草花に囲まれた環境で毎日庭に出て虫を取ったり、ボール遊びしたり、おもいっきり遊べる空間で子供たちの一人一人向きあい個性を尊重し「生きる力」を少しでも多く増やしていける場所になってきている。	毎日、自然と触れ合うことや、室内でできることを意識してプログラムを作成しています、自然と触れ合うことでやさしさや喜び、感性を学び、室内での限られた空間での共通理解、協力作業等など、療育を多角的に考え本人の居場所や強みを探していきます。	今後、少子高齢化が進み、より自立（生きる力）が求められる世の中になると思われるため、今後の困り感など想定して対処できるプログラム等を作成していきたい。
2	・職員の専門職と人員配置を充実させている。 各々、専門職からみた意見を取り入れて多角的に対応している ・職員会議など職員間で話し合う機会をしっかりと作ることで職員間のコミュニケーションを図りやすくし、同じ方向性を持って療育ができるようにしている。	・専門職の方々の意見を聞いて集団又は個別プログラムを作成している。 ・ミーティングで子ども達への関わり方などより良い療育ができるよう職員間で話し合い、共通理解の基で子ども達への関わりを行っている。	・今後も事業所内外での研修を積極的に行い、職員全員が専門的な知識と技術を高め、スキルアップしていけるよう体制づくりを行う。
3	活動プログラムが固定化されないようにし、かつ「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」に関する内容を取り入れて活動している。	社会資源の活用や社会生活での集団生活など想定して個々にあった対応方法を療育している。	昔ながらの決まり事やルールと今後変化していくものに対して柔軟に対応していかなければならないことをしっかり把握し、わかりやすく療育していかなければならない。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ご家族に対してペアレントトレーニングや家族へ向けての研修会ができていない。 ・保護者会など家族が交流できる場を作ることができていない。	・事業所内でペアレントトレーニングを実施しようとすると職員の技術などが必要と思われるため、現時点では、子ども達の療育で精一杯であるがペアレントトレーニング研修等受けスキルなど身に付けていきたい。	・ペアレントトレーニングができる人材を確保していく。 ・安全に保護者間交流ができる体制づくりを考えていきたい。
2	・地域との交流など地域に開けた事業所運営ができていない。	・地域との交流は、どのように進めればいいのか方法が難しい。	・自治会や市町損、公的団体へ方法の助言を聞くなど取り組みをしていきたい。
3	・第三者委員会など外部の機関を運営に取り入れることができていない。	・外部機関とつながるようにする体制づくりの時間の確保が難しい。	・市町村や公的団体へ方法の助言を聞くなど取り組みをしていきたい。